

2. 指標に係る調査結果

2-2 支出額

(2) 費目別 (外国人)

単位：円

	阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
全体	72,242	68,559	33,227	64,777	85,503	57,179	107,517	37,098	65,763	60,369	32,572	52,534	61,052
宿泊費	30,706	32,431	15,196	24,682	33,743	21,118	29,394	15,994	25,408	28,804	13,998	22,516	24,416
飲食費	13,195	13,172	6,082	18,745	20,193	14,425	22,067	6,091	14,246	11,357	4,146	8,237	12,519
交通費	5,298	7,001	3,291	6,709	8,502	3,750	7,938	4,381	5,859	4,852	2,755	8,838	5,756
活動費	3,462	679	976	2,917	1,353	1,859	2,490	4,055	2,224	2,961	666	1,915	2,121
娯楽費	2,948	527	1,781	2,593	3,952	1,845	2,298	1,648	2,199	1,667	932	1,762	1,996
買物費	12,041	7,026	4,785	8,669	15,413	7,764	26,766	3,707	10,771	7,697	6,030	7,522	9,765
その他	4,591	7,723	1,116	463	2,346	6,420	16,565	1,222	5,056	3,031	4,044	1,744	4,479

※ 2019年は暫定値。

2. 指標に係る調査結果

2-3 宿泊数

(1) 公園内

単位：泊

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	1.8	1.2	1.7	1.4	0.8	0.3	1.1	2.5	1.3	1.2	1.2	1.4	1.3
	2018	1.6	2.1	2.4	1.7	2.0	1.5	1.7	3.0	2.0	1.6	1.9	1.6	1.9
	2017	1.8	1.3	1.2	1.3	0.8	0.5	1.1	1.8	1.2	-	-	-	-
日本人 (参考)	2019	1.3	1.1	1.4	1.2	0.7	0.4	1.0	2.0	1.1	1.0	1.0	1.4	1.1
	2018	1.2	1.7	1.5	1.1	1.5	1.1	1.0	2.3	1.4	1.3	0.6	1.8	1.4
	2017	1.6	1.1	1.1	0.7	0.7	0.3	0.6	1.9	1.0	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

2. 指標に係る調査結果

2-3 宿泊数

(2) 公園周辺を含む

単位：泊

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	4.0	2.4	3.5	2.1	3.3	2.9	3.5	6.4	3.5	3.7	1.7	2.9	3.3
	2018	4.2	3.8	3.4	3.5	5.2	4.0	4.4	7.8	4.5	4.9	4.7	3.5	4.5
	2017	5.4	3.7	1.5	1.8	4.4	2.4	3.1	5.6	3.5	-	-	-	-
日本人 (参考)	2019	2.2	1.7	1.5	1.3	1.6	1.6	2.2	3.3	1.9	2.0	1.4	1.7	1.9
	2018	2.8	2.6	1.7	1.5	3.1	2.7	2.4	4.2	2.6	3.3	1.4	2.3	2.6
	2017	2.5	2.0	1.3	0.8	2.1	1.0	1.2	3.5	1.8	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

2. 指標に係る調査結果

2-3 リピーター率

2回目以上の来訪者

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	15.2	17.3	23.8	13.6	7.4	8.4	11.3	15.3	14.0	24.3	18.1	15.8	14.0
	2018	14.8	15.6	17.8	14.6	9.4	12.3	8.3	15.3	13.5	11.9	40.4	14.7	15.9
	2017	5.1	32.8	20.0	19.8	13.2	17.9	8.4	11.9	16.1	-	-	-	-
(参考) 日本人	2019	58.6	57.0	83.7	57.3	46.4	56.0	41.8	53.2	56.8	65.8	77.5	72.0	57.7
	2018	58.6	66.1	83.2	55.9	48.3	68.6	45.7	52.3	59.8	65.0	91.4	67.8	63.9
	2017	79.4	80.4	85.8	68.8	59.8	79.7	67.0	50.7	71.4	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

2. 指標に係る調査結果

2-5 満足／不満コメント（自由記述）

【不満コメント・抜粋】

- **ウェブから宿泊予約**をするのが難しかった。【阿寒摩周／シンガポール／30代女性】
- 韓国内では**あまり知られていない**。より広報を行って素敵な自然を見に来たら良いと思う。【阿寒摩周／韓国／20代男性】
- 公共交通**バスの頻度**がより多いと良かった。【支笏洞爺／香港／50代女性】
- 寺社で1300円のチケットを買ったが、誰も**英語を話せず**何を言っているかが理解できなかった。【日光／タイ／60代男性】
- 食べ物の説明など**英語サイン**がより多いと良い。たまに英語で書いてるが、**文法が間違っている**ことがあった。【中部山岳／米国／20代男性】
- **ベジタリアン**向けの食べ物、可能であれば**ハラール食品**を用意してほしい。【中部山岳／マレーシア／50代女性】
- **ゴミ箱**がもっとあると良い。【中部山岳／中国／20代女性】
- **洋式トイレ**があると良い。【中部山岳／インドネシア／60代男性】
- 食事の**メニュー数**が少なかった。【大山隠岐／中国／50代女性】
- 全てのレストランが**満席**で夕食を取るためには待つ必要があった。【慶良間諸島／ロシア／30代男性】
- **地元産**の魚や野菜の料理がもっとあると良かった。食料品店で生鮮食品があるのは良かったが、種類が少なかった。【慶良間諸島／英国／20代男性】
- フェリーに乗っている間に流れていた国立公園のビデオはすべてルールに関するもので、**観光スポットや体験**に関する情報がなかった。【慶良間諸島／米国／30代男性】

【満足コメント・抜粋】

- **自然が豊か**で、**景色が綺麗**だった。【阿寒摩周／台湾／50代男性】
- **展示方法**が面白かった。**展望台**が良かった。【阿寒摩周／中国／20代女性】
- スタッフの態度が良かった。**中国語と英語**の両方が話せるスタッフがいるのは素晴らしい。【十和田八幡平／シンガポール／30代女性】
- ビジターセンターの**スタッフが親切**でサービスが良かった。説明も分かりやすかった。【日光／台湾／40代男性】
- **英語の標識**が多くて良かった。【伊勢志摩／ノルウェー／30代男性】
- 登山と景色が良かった。【大山隠岐／中国／30代男性】
- 人々が礼儀正しく、**安全で清潔**だった。【阿蘇くじゅう／ドイツ／30代男性】
- ビジターセンターにある**展示物**が良かった。勉強になった。【霧島錦江湾／国籍不明／30代男性】
- 島が**静か**、海が綺麗。【慶良間諸島／ポルトガル／30代女性】
- 必要な**観光情報**がいつでも手に入れられて非常に役立った。【慶良間諸島／英国／20代男性】
- **温泉**に入りながら見える景色が綺麗だった、**食事**とサービスがよかった。【支笏洞爺／香港／30代女性】
- **飲料水の提供**。**休憩スペースの場所**は便利だった。**ヒューマニズム**。【富士箱根伊豆／香港／50代女性】
- **マイカー規制**がされているのが国立公園として素晴らしい。【中部山岳／シンガポール／30代男性】
- 山へ行くルートが綺麗だった。【中部山岳／米国／20代】



国立公園満喫プロジェクトの 先行 8 公園の成果について

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（１）

アドベンチャートラベル（AT）の推進

- 体験・滞在型旅行であるATを北海道の新たなブランドとして定着させるため、**アドベンチャートラベラーを重要なターゲット**として位置づけた。
- 2016年以降のATWSに関係者が毎回参加し、積極的な誘致の展開により、**ATWS（Adventure Travel World Summit）の2021年北海道開催が内定**

① AT関係者と地域とのネットワーク構築

- 「Adventure EDU」を釧路市で開催（2017年9月）
- AT関係者とのネットワーキングを図る「Adventure Connect」を札幌市で開催（2018年9月）
- AT関係者を招聘し、大型FAMツアー「Adventure Week」を開催（2019年2月）

② ATWSの誘致活動

- 過去のATWS（2016～19年）に参加し、北海道の魅力をPR
- 道知事らを中心に、ATTA会長に対してATWS2021の誘致意向を伝達（2019年6月）



これまでの成果例（２）

国立公園の新たな活用

- これまで**未活用だった国立公園の資源やエリア**について、自然環境の保全も踏まえた新たな活用を積極的に図り、民間等による取り組みを促進
- 阿寒湖畔ポッケ遊歩道を活用した夜のデジタルアートプログラムには、**延べ約3万4千人が参加**（2019年7月～11月）

① 夜のデジタルアートプログラム

- 阿寒湖畔ポッケ遊歩道（特別地域内）を活用し、アイヌの物語から自然との共生の大切さを伝える、夜のデジタルアートプログラム「カムイルミナ」を開始



② トレッキングツアー開始

- 2019年10月より、入山禁止となっていたアトサヌプリにおいて、ガイド付き限定のトレッキングツアーが開始
- エコツーリズム推進法を活用したルールを適用



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（3）

公共施設の開放等による民間投資の促進

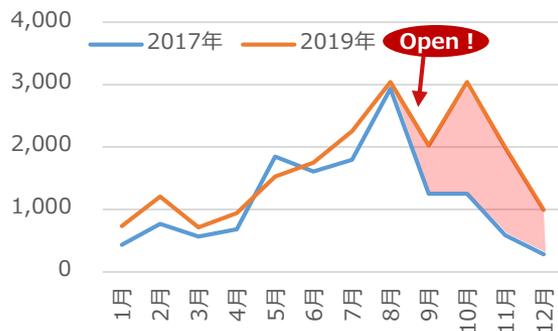
- 公共施設の開放や廃屋撤去等により、地域内外から地域の活性化につながる新たな民間投資を促進
- 川湯エコミュージアムセンター(EMC)で民間カフェが営業を開始し、**利用者数が顕著に増加(対2017年比240%)**
- 和琴野営場では民間事業者と連携してグランピングを試行し、**海外エージェントから次年度のツアー申し込みを獲得**

① VCへの民間カフェ導入

- 川湯EMCの2階に設置したカフェスペースで公募により選定した民間事業者が営業開始（2019年8月～）



川湯エコミュージアムセンター入館者数



② 廃屋撤去跡地の活用

- 川湯温泉街の廃屋撤去に着手し、地域の民間事業者等による跡地活用を検討中（2019年11月～）



※地域による活用イメージ

③ 公設野営場の民間活用

- 和琴野営場にて、民間事業者と連携し、閑散期有効活用策の検討としてグランピングを試行（2018～19年）



- 環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結し、2020年度より弟子屈町内の公設野営場を民間事業者により一括運営



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト

2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数

2015年 6.3万人 (8.9%)	→	2016年 5.8万人 (10.2%)	→	2017年 5.7万人 (11.2%)	→	2018年 5.8万人 (12.7%)
--------------------------	---	---------------------------	---	---------------------------	---	---------------------------

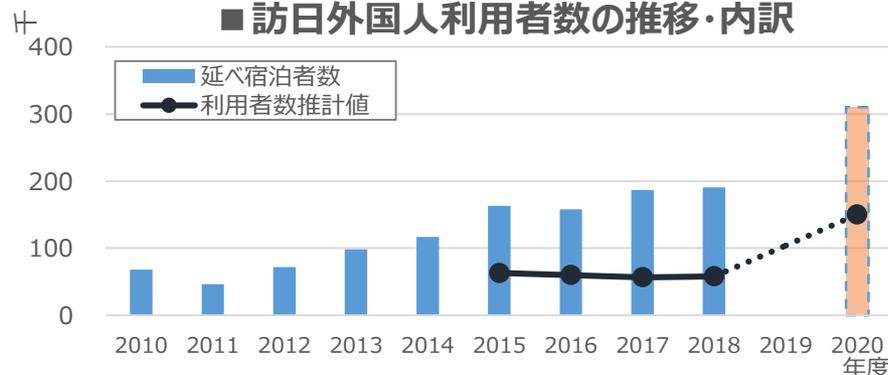
() は標準誤差

※目標値：阿寒摩周国立公園関係市町訪日外国人延べ宿泊者数：31 万人（2020年）

取組による成果・効果

- 道内一体となった取り組みで**アドベンチャートラベル**の推進を図り、**国際会議の誘致に成功**
- 公園内の**未利用資源・エリアの新たな活用**や**公共施設の民間開放**等に積極的に取り組んだ結果、VCへの民間カフェ導入、野営場の民営化をはじめとした**民間投資**が進んだ
- 取り組みの成果により、**訪日外国人宿泊者数**は年々**増加傾向**
- 特に「アジア」と比較して、「**欧米豪**」及び「**その他**」の**増加率が高い**点が特徴的

■ 訪日外国人利用者数の推移・内訳



	2015年度	2018年度	伸び率
アジア	152,846	168,781	110.4%
欧米豪	6,842	10,391	151.9%
その他	3,572	11,516	322.4%
計	163,260	190,688	116.8%

課題、強化が必要な取組

- ATWS2021の北海道開催を見据え、**アドベンチャートラベル**を主要なターゲットを定め、**消費額の向上**、**滞在日数の延長**等に繋がる取り組みを重点化
- SDGsの推進を踏まえ、アイヌ文化をはじめとした世界に誇る自然との共生の文化を発信する拠点として**持続可能な観光地**として**国立公園のブランド化**

強化する主な取り組み

ひがし北海道におけるATの玄関口

知床、釧路湿原との連携等、ひがし北海道におけるATを満喫するための**入口としての機能を強化**



トレイルネットワークの形成

歩いて長期に滞在する旅行を推進するため、トレイルの整備など**移動しながら楽しめるアクティビティの充実**等を図る



官民連携による新たな活用の促進

廃屋撤去、公共施設の開放等により**民間投資を促進**。また、**持続可能な仕組みを前提とした官民連携による新たな活用**を検討



利用者目線での施設等の改善

多言語化、動線の明確化など、基本的な施設の**利用者目線での改善**に引き続き対応



十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（1）

十和田八甲田地域での冬季利用の促進

- 世界的に見ても降雪量が多く、良好なパウダースノーで知られる十和田八甲田地域。
- 冬季の楽しみを充実させ、年間を通じた持続可能な観光地の維持が図られた。
- 2017年12月から始めた新たな冬季観光コンテンツによって、十和田市内の冬季宿泊者数が増加。
※2016年度44,529人泊、2017年度60,833人泊、2018年度67,774人泊

奥入瀬氷瀑ツアー（ネイチャーガイドツアー、ナイトツアー）

- 2017年度から開始した冬季観光コンテンツで、冬にしか見ることができない氷瀑などの自然景観をガイド解説付きで堪能できるツアー。
- 日中だけでなく氷瀑などの自然景観をライトで照らす「ナイトツアー」も実施。
- 2018年度からは、十和田湖畔で開催される十和田湖冬物語と連動したツアーも実施（冬物語会場→ナイトツアー→冬物語会場に戻って花火鑑賞ツアー）
※2018年度1,114人、2019年度1,402人の参加者数
※海外からの参加者割合が増加（2.1%が22%）



氷瀑ナイトツアー



十和田湖冬物語

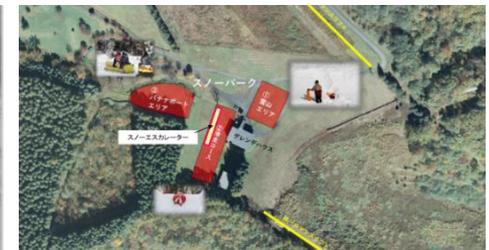
十和田湖温泉スキー場スノーアクティビティ

- 2017年12月に国立公園隣接のスキー場において、気軽に雪を楽しめるスノーパークを新設。
- 2018年度はスノーイスカレーターを新設し、利用者の利便性向上を図った。

※2018年の利用者数が増加



スノーイスカレーター



十和田湖温泉スキー場スノーパーク

十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（2）

八幡平地域での受入環境の強化

- 「桜と雪の回廊」「ドラゴンアイ」「古くからの湯治場が点在」する八幡平地域。
- 優れた自然や文化を体験できる魅力的なコンテンツの開発を進めることで、外国人の受入れ環境の強化につながった。
- 八幡平見返峠駐車場の利用台数が増加（11月上旬～4月中旬までは冬季閉鎖）。

※2016年24,870台、2017年25,025台、2018年32,944台、2019年37,421台

①八幡平アスピーテライン除雪見学会

- 例年11月上旬～4月中旬まで冬季閉鎖される八幡平アスピーテラインにおいて、2018年3月から除雪作業の一般公開が開始。
- 2019年からは見学会のほか、ガイド付き雪の回廊ウォーキングも開催。



②鏡沼のドラゴンアイ（自然現象）

- 例年5月下旬～6月上旬にかけて、雪が溶けると全体が巨大な竜の目のように見える自然現象。
- 2016年頃からSNSによって拡散、2019年に秋田県公式サイト「八幡平ドラゴンアイ発信局」が開設。
- 5月の駐車場利用台数が年々増加。

※2016年3,623台→2019年9,248台



十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 2.1万人)
 2015年 2016年 2017年 2018年
 0.7万人 → 2.2万人 → 1.9万人 → 2.9万人
 (26.7%) (16.6%) (19.5%) (17.9%)
 () は標準誤差

十和田湖畔での景観改善

- 13案件のうち、3案件について撤去に向けた訴訟提訴
- 上質化補助金を活用した民間施設の外観改善など



酸ヶ湯グランピング試行

- トレッキングアクティビティ×宿泊のセッ
トで試験的に実施。
 ※2019/8/30～9/8、15000円/人
 ※3棟で延べ22名の利用



利用施設の再整備

- 滞在空間上質化のための園地整備
- 満足度向上のための歩道整備

休屋園地



鳶沼歩道



鳶沼：紅葉時期



案内誘導の強化

- ビジターセンターにおけるQRコード
- 映像及び標識類の多言語化

二次交通の改善

- 2016年から十和田湖～八幡平間の「八郎太郎号」運行
 ※2016年129人→2019年348人、
 外国人が4人→36人に増加

取組による成果・効果

- 冬季利用の促進や外国人の受入環境の強化などによって、訪日外国人利用者数の目標値を達成。
- 二次交通の改善を目指した観光路線バスや新幹線駅から国立公園利用拠点までのシャトルバス利用者も順調に増加。

課題、強化が必要な取組

- 国立公園コンテンツを利用した北東北三県の広域周遊ルートの充実や外国人受入れ環境の強化を図りつつ、旅行消費額や満足度などの質の向上を図る。
- 主要交通拠点及び観光拠点において、国立公園の案内誘導の充実と多言語対応の促進を図る。

日光国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 50万人)
 2015年 2016年 2017年 2018年
 19万人 → 24万人 → 27万人 → 30万人
 (5.1%) (5.0%) (5.1%) (5.5%)
 () は標準誤差

これまでの成果例 (1)

国際観光地 中禅寺湖エリアの復活

- 明治から昭和初期に外交官の別荘が数十軒建設され「夏の日光は外務省のロビーのようだった」と言われた中禅寺湖。
- イタリア／英国の大使館別荘記念公園のさらなる活用とともに、かつての歴史を堪能するための環境整備が進捗。

① 大使館別荘記念公園活用促進、船によるアクセス新設

- 大使館別荘記念公園において、コンサート等を実施。
- アメリカの水辺リゾートをモデル1947年に整備されたポートハウスにおいて、英国大使館関係者による貸切ディナーを実施。
- 駐車場から徒歩15分の大使館別荘記念公園に船でアクセスできるように東武興業が棧橋を新設(2019年)。施設利用者のうち1～2割が船を利用。



中禅寺湖半ポートハウス



大使館別荘記念公園前棧橋

② 日光エリアの案内所連携強化

- 英語対応可能なJNTOカテゴリ2の観光案内所を中禅寺湖畔に新設(2018年)。年間8,500人程度の外国人が利用。



奥日光インフォメーションセンター

③ 富裕者層向けコンテンツ開発

- 2020年5月のザ・リッツ・カールトン日光開業を見据え、ザ・リッツ・カールトンとともに大使館別荘の専有利用や富裕者向けアクティビティ開発が進行中(栃木県・環境省事業及び関東運輸局事業)。



ザ・リッツ・カールトン日光 パース



イタリア大使館別荘記念公園

④ レンタサイクルによる新規アクセス・体験の提供

- 栃木県・県立日光自然博物館が中禅寺湖畔でのレンタサイクルを開始(2017年)。年間約1,500台が利用。中禅寺湖遊覧船への自転車持ち込みについても検討中。



レンタサイクル

日光国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

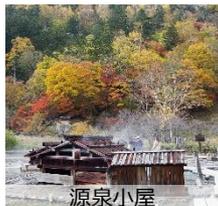
これまでの成果例（2）

湯元温泉の「日光の奥座敷」としての上質化

日光地域の奥に位置する湯元温泉への誘客・滞在時間延長による日光地域全体の活性化を目指し、廃屋の撤去、資金・人材を融資する民間組織の巻き込みを実施し、地域との対話を開始。

① 商業施設誘致と連携した再整備

- 環境省所管地である湯元温泉を**日帰温泉・商業施設誘致を含めた再整備**するべく、マスタープラン作成に向けた地域対話を実施中。



源泉小屋



温泉組合婦人部との意見交換

② 引き算の景観改善

- 2018年に**ガソリンスタンドの廃屋を1棟撤去**。2020年に**土産物屋の廃屋を撤去予定**。撤去跡地は①の再整備で活用予定。



撤去前



撤去後

③ 民間からの資金・人材投資の促進

- 地域経済活性化支援機構（REVIC）と地銀が組成する観光遺産産業化ファンドに**栃木銀行と足利銀行が出資を決定**（2019年）。日光地域を対象として資金とともに、**人的資源供与を通じて観光を通じた地域活性化**を予定。



これまでの成果例（3）

公共施設の民間開放

飲食店に限られる国立公園の奥地にあるビジターセンターにおいて飲食できるスペースを提供することで、利用者満足度の向上や滞在時間の延長を実現。今後民間視点でキャンプ場を整備し、国立公園核心部への誘客を図る。

① 那須平成の森でのカフェ出店

- 2017年に開始。2019年度は5～10月の開園日の6.5割程度の日数で出店し、**利用者の1.5割程度が利用**。
- 公園外のカフェ本店舗とお客の行き来も発生中。
- ガイドウォークと森の中でのカフェを組み合わせたプログラムも試行。



プログラムと合わせた森カフェ（2019年）

② 那須野営場の運営者を交えた再整備

- 運営者・設計者・整備主体を同時に公募する方式で環境省のキャンプ場を再整備するための条件整理を実施。2020年度に公募予定。

③ 湯元VCのくつろぎスペース整備と地元商店の試験出店

- 湯元ビジターセンターに整備したくつろぎスペースにおいて、地元麴屋による試験出店を実施。**来館者の1割程度が購入**。



くつろぎスペースでの麴屋出店の様子

日光国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（４）

「誰が来ても楽しめる国立公園」のためのガイド体制・案内機能強化

国立公園を「日本第一級の自然を誰でも体感できる場所」としてソフト面でブランディングしていくことを目指し、ガイドの質の向上と利用者の属性・滞在時間などに応じた案内機能強化を実施。

①ガイド登録制度の設立

- ▶ 日光国立公園で活動するガイドを個人単位で登録する制度を2019年度に設立。登録に必須の研修に130名超のガイドが参加。

②ガイド有志による奥日光ガイドの組織化

- ▶ ガイド限定エリアの開拓、ガイドの質の向上などを目的に、民間有志による奥日光のガイド組織が設立。

③ビジターセンターへのアクティビティ紹介デジタルサインージ新設

- ▶ ビジターセンター（日光湯元、那須高原）に90程度のアクティビティを紹介するデジタルサインージを設置。掲載記事の作成をきっかけとして、鉄道会社などを含めた関係機関でのPR写真素材の共有システムを構築予定。

④日光エリアの案内所における機能及び連携の強化

- ▶ **JR日光駅インフォメーションセンター**
奥日光や那須など広範囲なエリアの情報発信を強化（2016年）
- ▶ **東武日光駅**
英語対応可能な「日光コンシェルジュ」を配置（2017年）、祈祷室などムスリム対応整備を実施（2018年）
- ▶ **中禅寺湖畔**
英語対応可能なJNTOカテゴリー2の観光案内所を新設（2018年）（再掲）

- ▶ 東武・JR日光駅、中禅寺湖、湯元などの案内所・ビジターセンタースタッフ間での情報交換会、コンシェルジュ研修を実施（2020年）。エリアとして一体的な案内ができることを目指す。
- ▶ ビジターセンター・案内所スタッフが地域のアクティビティを無料体験できる仕組みを構築予定。



日光ビジターセンターデジタルサインージトップページ

取組による成果・効果

- ▶ 2015年と比べ、2018年は利用者数が1.6倍、宿泊者数が1.27倍に（目標達成には伸び率増が必要）
- ▶ 民間含め、様々な取り組みが展開され、利用者増、連携強化、体制強化が実現

課題、強化が必要な取組

- ▶ 特に宿泊者数が伸び悩み、消費額が他の公園より低い
→ 冬季コンテンツ、夜間と朝のコンテンツ、富裕者向けコンテンツ開発・磨き上げ
→ 設立されたガイド組織を生かしたガイドの質の向上
- ▶ 万人に対応できる案内機能が実現できていない
→ 案内機能のさらなる強化